

研究科報告

広島文化学園大学大学院看護学研究科

研究科長 岡本陽子

1. 研究科の活動

大学院看護学研究科は博士前期課程及び博士後期課程の2課程を有し、学生の1学年定員はそれぞれ8名、3名である。平成30年度の学生数は博士前期課程1年生7名（前年秋入学含め）、2年生5名（休学者1名含め）で、博士後期課程は1年生3名（前年秋入学含め）、2年生4名（うち1名は休学）、3年生2名、長期履修及び在籍学生3名であり、各学生に対して教育・研究指導を展開した。その結果、平成30年度は博士後期課程1名が博士号（看護学）を、前期課程の4名が修士号（看護学）、学位を取得した。本年度はCNSコース初めての修了生を輩出した。前期課程うち2名が専修免許を取得した。本年度より看護学研究科の3つのポリシーを踏まえて研究教育を展開した。

学位の取得以外に平成29年度の主な取り組みは以下の通りである。

① 教員組織の再編成

全学的な「大学院研究科担当教員資格審査規程」に基づいて、年度末に教員の業績評価を実施し、1名が合からマル合の評価を得た。また新規採用教員の業績評価を実施し、教員組織の充実を図っている。

② 博士後期課程学生の成果物（博士論文）のネット公表2名を行った。

③ 「職業実践力育成プログラム（BPプログラム）を開講し4名の修了生を輩出した。

④ 研究科在籍学生含め全学生に対する授業評価に関するアンケートを施行した。なお、前年度の教育評価アンケートの結果は分析を行い研究科委員会で報告した。